

路上生活抜け出す支援を

GOGO
高校大学自由学園男子部
(東京都東久留米市)

東京・池袋のホームレスの人々に、おにぎりやマスクを配る活動をしている中高生がいます。東京・自由学園男子部(東京都東久留米市)の生徒です。コロナ禍で、「社会のために自分たちができることはないか」と考え、動き出しました。(佐藤美咲)



学校から提供されたお米10kgを炊いて、おにぎりを作る生徒たち。東京都東久留米市、これも10月21日。



おにぎりを作り終えた後は、「世界の医療団」のスタッフからホームレスの現状について話を聞きました—東京都東久留米市

10月21日の夕方、自由学園男子部の食堂では、コロナ三角巾に身を包んだ生徒の姿がありました。中学1年から高専科2年の7人が揃ってしたのは、おにぎり配りです。

1個20円ほどに値するおにぎり配り。100個のおにぎりを作っていました。すべて池袋のホームレスの人たちに渡すためのものです。

活動の発起人は、高2の中村哲人さん。中村さんは、新型コロナウイルスの影響でオンライン授業中心の1学期を過ごしていたとき、困っている人のためにマスクを作る人の姿などをテレビで見ても、刺激を受けたいと思います。自分も社会で困っている人のために役に立ちたいと思いました。

男子部長の野村孝幸さん。男子部長の野村孝幸さん。NPO法人「FEELSHIN」とつながり、校内呼びかけで集まったメンバーは、7月には、同法人とその協力パートナーの国際NGO「世界の医療団」によるホームレス支援活動に参加。失業や病気などの事情だけでなく、親愛や障がい



池袋駅構内にいるホームレスの人たちにおにぎりやマスクを配る生徒。大人のスタッフが健康状態などを聞いて配りました—東京都豊島区

などさまざまな事情がきっかけでホームレス状態になったという人もいます。「これまではその人の責任なので、どうも現状を知り、路上生活から抜け出すためには、周りの助けが必要なんだと感じました」。

8月は自分たちで作ったおにぎり100個を、池袋周辺に配布。9月は、ホームレス生徒の協力を得て、手作りの布マスクを届けました。

おにぎり手渡し
駅周辺を夜回り

10月21日、作ったおにぎり100を手に生徒たちが出かけました。池袋駅前の公園です。時間は午後7時です。毎週水曜日に「FEELSHIN」からのおにぎりやマスクを配布しているため、30人ほどのホームレスの人たちが集まっています。FEELSHINのスタッフの指示を受けながら、生徒たちは順番に手に握りなすを集めた人たちに手渡ししました。

通学、池袋駅を利用する中村さんは、活動を重ねるうちに、駅を歩く際にホームレスの人たちへのことが気になってきた。自分たちのおにぎりやマスクを多くの人に届けて、ホームレスの方々が置かれている状況や社会問題への関心につながってほしいですと話しています。